

## 研 究 所 彙 報 V

— 1958.4 ~ 1959.3 —

### 《学会及び研究会報告》

※日本都市学会大会

(5月17日於名古屋市公会堂)

「都市の社会学的地区区分について」

井 森 陸 平

「名古屋市の社会生態学的構造」

川 越 淳 二

※関西社会学会大会(6月1日於和歌山大学)

「産業における非公式組織の分類について」

井 森 陸 平

※中部都市学会研究例会

「市民意識の測定」

——尺度構成の手続と若干の分析——

牧 野 由 朗

※日本社会学会大会(10月15日於中央大学)

「山村における農民の生活構造」

——家関係の sociometry を中心にして——

島 本 彦 次 郎

牧 野 由 朗

※史学会大会(11月於東京大学)

「明清時代の中国とチベット」

鈴 木 中 正

※日本仏語学会(11月於関西日仏学館)

「Où en est la sémantique française ?」

堀 井 令 以 知

### 《現 地 調 査》

(A)西尾市横手部落の社会学的調査

ロックフェラー財団基金と愛知県委託による総合調査研究で井森所員を調査団長として京都大学、愛知学芸大学、愛知県立女子大学と協同して行う。本研究所より井森、島本所員、牧野研究員ほか数名の調査員が参加。現地調査は7月下旬から8月上旬。

(B)村落構造尺度作成に関する調査研究

井森所員が昭和33年度文部省科学研究費(各個研究)の交付を受けて行う調査研究で牧野研究員が共同研究者として参加している。58,9月に愛知県下の集落2000を対象とし郵

送法による調査を行い、59,3月にその結果から典型的な村落として新城市横山、額田町鬼沢、下山村日影の各部落をとりあげ、面接によるインテンシブ調査を行う。現地調査には井森所員、牧野研究員ほか延10余名の調査員が参加した。

(C)住宅に関する市民意識の調査

井森所員は春日井市の委託により、春日井市において住宅に関する市民意識について面接調査を行う。現地調査は59,3月。

(D)門徒村に関する社会学的研究

島本所員、牧野研究員は昨年にひきつづいて東加茂郡下山村において門徒村とそのパースナリティに関する調査研究を行う。現地調査は8月中旬、調査員約10名が参加。

(E)伊勢志摩方面学術総合調査研究

中部日本新聞社が昭和33年度から3ケ年計画で行っている伊勢湾周辺総合学術調査に、本研究所から鈴木(泰)所員、川越所員が参加した。鈴木所員は宗教班として、川越所員は民俗班として8月以降同方面で調査研究に従事している。

(F)佐久島、名倉村の実態調査研究

名古屋大学医学部精神医学科の人間関係調査班のスタッフとして川越所員は引続き研究に参加し、佐久島、名倉村、名古屋市の実態調査を継続中。

(G)三河一宮の古墳群についての研究

横山、浅若所員外若干名の調査員は昨年にひきつづいて三河一宮における古墳群の調査研究を行う。現地調査は8月上旬。

(H)東三河地方の条理村遺制についての研究

歌川所員は昨年の研究にひきつづいて東三河地方一帯にわたって条理村の遺構の復元を試みるために、豊川市、宝飯郡にわたって現地を踏査し、資料の蒐集を行った。

(I)東三河地方の文学遺跡に関する調査研究

久曾神所員は文学遺跡研究のため豊川、国府、御油、鳳来寺方面の調査を行い、資料文

献の蒐集を行つた。

(J) 渥美半島における方言調査

堀井所員は伊良湖、福江地方を中心にして渥美半島における方言調査を行う。現地調査は6月。

(K) 御所ことばの研究

堀井所員は文部省科学研究費の交付をうけて奈良中宮寺、京都大聖寺において「御所ことば」の調査研究を行う。現地調査8月。

《昭和34年度研究所組織》

所 長	井森 陸平	
所 員	井森 陸平	久曾神 昇
	松葉 秀文	鈴木 中正
	市 川 寛	鈴木 泰山
	川越 淳二	島本彦次郎
	津之地直一	浅 若 晃
	歌 川 学	堀井令以知
	見城 幸雄	牧野 由朗
	中 出 惇	近藤 恒次
幹 事	歌 川 学	
運営委員	久曾神 昇	川越 淳二
	島本彦次郎	歌 川 学
研究所事務囑託	堀部 伊代	